

第2学年 図画工作科学習指導案

題材 あつまれ すてきな なかまたち
～ざいりょうのへんしん～

指導観

○ 本題材は、様々な身近材の特徴から発想を広げ、身近にいたらいいなと思う楽しい生き物を考え、工夫しながらつくることをねらいとしている。

身近材の特徴は、色や形、質感、可変性などによって決まり、それぞれがもつ特徴には違いがある。児童は、様々な身近材を見たり、実際に触れたりしながら、その特徴を見出していく。その際、「どんな生き物に見えるか」という視点を与えることにより、児童はその材料の特徴を生かして生き物を創造することができると考えられる。「身近にいる生き物」としたのは、考え出した生き物が生息する周りの様子も具体的に考えることで、色や形などについてより深く考えながら自分がつくりたい生き物を明確にしていくことができると考えられるからである。

また、次の4点から、本題材は造形的な資質や能力を伸ばす上で有意義であると考えられる。

- ① 児童に馴染みのある身近材を主材料とし、身近にいる生き物をつくるという設定にしたことにより、児童は自分がいたらいいなと思う生き物を意欲的に表現することができる。
 - ② 様々な身近材の特徴をもとにして、楽しい形を考えることができる。
 - ③ 様々な身近材の特徴を生かして、組み合わせ方や色の選択について考えながらつくることができる。
 - ④ 作品完成後に、作品についての自分の気持ちを明確にしながら鑑賞活動を行うことで、材料の特徴を生かした互いの表現の面白さや楽しさに気付くことができる。
- 本学級の児童は、これまでの図画工作科の学習において、空き箱やプリンカップ、スポンジ、モールなどの身近材をつかって、生き物やロボットなど、自分がつくりたいものをつくる活動を経験している。また、「ふしぎなかくれんぼ～みいつけた！」の学習で、身のまわりの自然物や人工物の形や色に着目して、人の顔や動物などに見立てて遊ぶ活動を経験している。

一方、鑑賞活動については、「友達の作品をみるのは楽しい」と感じている児童は87%いるものの、「友達の作品をみておもしろい、楽しいと思うものを見つけられる」という児童は66%に止まっている。「自分の作品の特徴やよさを伝えられる」という児童は72%であり、「友達の作品のよさをその作者に伝えられる」という児童は68%である。このことから、友達の作品を鑑賞する活動において、児童一人一人が友達の作品の面白さや楽しさを見つけ、それを相手に伝えられるような指導の工夫を行う必要があると考えられる。また、「友達の作品をみて、自分の作品に生かしてみようと思ったことがある」という児童は43%であり、鑑賞したことを自分の表現に生かしていけるような指導の工夫も行った方がよいと考えられる。

○ 本題材の指導にあたっては、まずこれまでの図画工作科の学習において使ってきた材料を提示し、材料のどのような特徴を生かして作品をつくったか想起させることにより、材料の特徴を生かした造形活動への意欲をもたせる。そして、「ふしぎなかくれんぼ～みいつけた！」の学習で、身のまわりの自然物や人工物の形や色に着目して、見立て遊びをしたことを思い出させる。その上で、テープカッターやステープラーを様々な方向から見せ、どんな生き物に見えるかを話し合わせる。そのような活動を通して、本題材の学習に対する意欲をもたせる。

つぎに、様々な身近材を集める活動を行わせ、集めた材料は、材料コーナーに展示させる。材料そのものを展示するのが困難な場合

つぎに、様々な身近材を集める活動を行わせ、集めた材料は、材料コーナーに展示させる。材料そのものを展示するのが困難な場合

は、写真に撮って展示させる。展示した材料を何かに見立てた場合は、「何に見えた？カード（付箋紙）」にそのものの名前を書かせた上で貼付させる。その材料を集めた本人以外の児童が何かに見立てた場合にも、同様にカードを貼付させる。

その後、並べたり、積んだり、組み合わせたりするなど、集めた材料に対する関わりを十分にもたせ、児童が作りたい生き物のイメージをふくらませることができるようにする。その際、他の児童と話し合う場を設定することで、多様な見方をする事ができ、発想を広げたり、自分の発想のよさに気付いたりすることができると思われる。このような活動を通して、自分がいたらいいなと思う生き物をつくるための主材料を選択させる。

主材料を選んだら、材料の形や組み合わせ方についても考えながら、大体の形をつくる活動を行わせる。接着や接合がしっかりとできるように、接着剤や接合材料の使い方についての資料を提示し、個別の指導も行う。

大体の形ができれば中間鑑賞会を行い、互いの表現の面白さや楽しさを感じ取り、伝え合わせる。その際、生き物が生息する周りの様子についても想像させながら、色や形、質感などについて考えさせる。そして、その後の自分の表現を深めたり広げたりできるようにする。中間鑑賞会后、彩色や飾り付けを行わせる。児童が自分の表したいことを明確にしながら表現できるように、図工ノートの記述や児童の活動の見取りをもとにして、個に応じた支援を行う。

題材の終末には、つくった生き物の特徴について紹介し合いながら行う鑑賞活動を設定する。事前に生き物の名前や生息場所、がんばったところや工夫したところなどを、生き物図鑑（作品紹介カード）に書かせる。その際、作者の思いが伝わるように、できる限り詳細に書かせる。そして、作品を生息場所ごとにまとめて展示し、〇〇動物園をつくる。

実際にその場所に展示して鑑賞活動を行うのが望ましいが、活動時間の確保や天候に左右されることを考慮して、児童に生息場所の様子を絵や立体で表現させ、作品を展示するための背景や土台とする。そして、実際の場所に作品を置いて撮影した写真を貼った生き物図鑑を作品と共に展示することで、できる限り本当に生き物が生息している様子を想像できるようにする。

まず、互いの作品を鑑賞し合う前に、2名の児童の作品を見て思ったことについて自由に話し合う活動を設定する。自由に話し合わせながら、子ども達が多様な鑑賞の視点をもつことができるように、一人一人の発言の取り上げ方を工夫する。つぎに、作品の展示場所の異なる3人組で互いの作品を鑑賞する。はじめに作者以外の2人が、作品紹介カードを読まずに作品や写真を見て、面白さや楽しさなど思ったことを自由に話し合う。その後、作者が作品紹介カードをもとにして、がんばったところや工夫したところについて話しながら作品の紹介をする。作者以外の2人は、作品紹介を聞いて思ったことを伝えたり、質問をしたりする。以上のような活動を繰り返して、同じグループの友達の作品を鑑賞することで、児童が互いの作品の面白さや楽しさを見付けられるようにしたい。

目標

- 身近材を生かして、いたらいいなと思う生き物をつくる活動を楽しむことができる。
(造形への関心・意欲・態度)
- 材料の特徴をもとにして発想を広げ、色や形などの表し方を考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 様々な材料の生かし方を工夫して、表現することができる。
(創造的な技能)
- 互いの表現の面白さや楽しさに気付いたり、自分の気もちや感じたことを伝え合ったりすることができる。
(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全6時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体の評価規準	指導事項	指導方法
表 し た い こ と を 明 確 に す る	<p>1. つくってきた作品および見立て遊びの経験について想起し、形や色など材料の特徴を生かした造形活動への意欲をもつ。</p> <p>2. 提示された材料を様々な方向から見て、どんな生き物に見えるか話し合う。</p> <p>3. 様々な身近材を集め、材料コーナーに展示する。</p> <p style="text-align: center;">（1時間）</p>	○	○			<ul style="list-style-type: none"> 今までにどんな材料を使ってどんな作品をつくってきたか、またどんな活動をしてきたか、楽しみながら振り返っている。（関） 提示された材料を様々な方向から見て、生き物に見立てている。（発） 様々な身近材を集め、見立て遊びをすることを楽しんでいる。（関） 形や質感の面白さや楽しさに着目しながら材料にかかわっている。（発） 	<ul style="list-style-type: none"> どんな材料をどんな風に使ってきたか、考えながら既習内容を振り返ること。 身近材の面白さや楽しさを積極的に見付けること。 何かに見立てながら材料を見て集めること。 身近材を見るときに、形や質感の面白さや楽しさに着目すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 従前の学習で使った材料を数種類提示し、材料のどのような特徴を生かして作品をつくったか振り返らせて発表させる。 図工ノートも参考にさせる。 テープカッターやステープラーなど、見る方向を変えると様々なものに見立てられる材料を提示する。 材料そのものを展示するのが困難な場合は写真に撮って展示させる。 材料を何かに見立てた場合は、「何に見えた？カード」に生き物の名前を書かせた上で貼付させる。 第2時までに家庭からも様々な材料を集めさせる。
つ く り た い も の に つ い て 考 え る	<p>4. 材料を並べたり、積んだり、組み合わせたりして、つくりたい生き物のイメージをふくらませる。</p> <p>5. 材料の形や組み合わせ方について考え、大体の形をつくる。</p> <p style="text-align: center;">（1時間）</p>	○	○			<ul style="list-style-type: none"> 見たりふれたりしながら材料に進んで関わり、材料の面白さや楽しさを見付けている。（関） 材料の形や質感などの特徴をもとにして、つくりたい生き物とそれをつくるための主材料について考えている。（発） 材料の特徴を生かしながら、つくりたい生き物をつくるのに最適だと思う表し方で表している。（技） 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料に関わり、使い方や組み合わせ方を試しながら、何に見えるか考えること。 材料の特徴をもとにして、つくりたい生き物について具体的に考えること。 つくりたい生き物のイメージに合う材料を選び、形や組み合わせ方について考えながらつくること。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料に十分に関わらせ、様々な表し方を試させることにより、最適なものを見付けられるようにする。 他の児童と話し合う場を設定し、発想を広げたり自分の発想の面白さや楽しさに気付いたりすることができるようにする。 接着や接合がしっかりとできるように、接着剤や接合材料の使い方についての資料を提示する。

<p>材料の特徴を生かして表す</p>	<p>6. 大体の形になった生き物をもとにして、中間鑑賞会を行う。</p> <p>7. 彩色や飾り付けをして、目や手、体の模様などを表す。</p> <p>(2時間) (本時1/2時間)</p>		<p>○ ○</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞の視点をもちながら友達の作品を見て、材料の特徴を生かした表し方の面白さや楽しさを見付けている。(鑑) ・ 自分がつくりたい生き物をつくるのに最適だと思う材料や表し方を考えている。(発) ・ 選んだ材料をどの部分にどのように使うか確かめながら表している。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの鑑賞の視点をもって作品を見て、面白さや楽しさを見付けること。 ○ 自分がつくりたい生き物のイメージに合う材料を選び、形や組み合わせ方について考えること。 ○ 材料の特徴にあった加工の仕方をする事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の生息場所の様子を想像させ、色や形、質感などについて考えさせるために、4つの場を設定し、それぞれの場で3人組をつくる。 ・ 互いの生き物が出合い、いいところを伝え合うという場面を設定することで、表現の面白さや楽しさを感じ取らせる。 ・ 接着剤や接合材料の使い方に関する資料を提示し、接着や接合についての指導を行う。 ・ 図工ノートの記述や児童の活動の見取りをもとにして、個に応じた支援を行う。
<p>鑑賞する</p>	<p>8. 生き物図鑑をつくり、作品を展示するための準備をする。</p> <p>(1時間)</p> <p>9. つくった生き物の特徴について紹介しあいながら、互いの作品を鑑賞する。</p> <p>(1時間)</p>	<p>○</p>	<p>○ ○</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の作品を見て、がんばったことや工夫したことなどをもとにして材料の特徴を生かした表し方の面白さや楽しさを見付けている。(鑑) ・ 互いの作品を鑑賞する活動に、意欲的に取り組んでいる。(関) ・ 友達の作品を見て、材料の特徴を生かした表し方の面白さや楽しさを見付けている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの鑑賞の視点をもって作品を見て、面白さや楽しさを見付けること。 ○ 色々な見方をし、互いの作品の面白さや楽しさを進んで見付けること。 ○ 自分なりの鑑賞の視点をもって作品を見て、面白さや楽しさを見付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の生息場所で写真を撮影して、生き物図鑑に貼らせる。生き物図鑑には、名前や種類、生息場所、がんばったところや工夫したところなどを書かせる。 ・ 生き物の生息場所の様子がよく伝わるように、絵を描いたり立体的な展示の土台をつくったりして、展示の仕方の工夫を行わせる。 ・ 様々な見方ができるように考慮して、グルーピングを行う。 ・ 児童が自然に鑑賞の視点をもつことができるような活動提案の工夫を行う。

本時

平成21年10月26日(月) 5校時 図工室

本時目標

- 自分がつくりたい生き物をつくるのに最適だと思う材料や表し方を考えている。
(発想や構想の能力)
- 選んだ材料をどの部分にどのように使うか確かめながら表している。(創造的な技能)
- 鑑賞の視点をもちながら友達の商品を見て、材料の特徴を生かした表し方の面白さや楽しさを見付けている。(鑑賞の能力)

授業仮説

自分なりの鑑賞の視点をもちながら制作活動に取り組んでいる児童に、3人組で互いの作品の特徴や表し方の工夫について伝え合う場を設定し、場の工夫を行えば、児童は互いの作品の材料の組み合わせ方や材料の質感の生かし方の楽しさ、形や色の面白さを見付け、それを自分の表現に生かすことができるであろう。

準備

- 接着接合の仕方資料
- 図工ノート

本時の指導の考え方

本時は、児童が様々な材料の特徴を生かした表し方の面白さや楽しさに気付き、それを自分の表現に生かしながら、いたらいいなと思う生き物をつくることをねらいとしている。なお、本時における児童にもたせたい鑑賞の視点は、材料の組み合わせ方や材料の質感の生かし方の楽しさ、形や色の面白さという2点である。

本時の学習にあたっては、まず前時の学習で大体の形までつくった互いの作品を鑑賞する中間鑑賞会を行わせる。鑑賞は、それぞれがつくる生き物の生息場所を、緑(木、花、草)、青(池、水たまり)、黄(砂場、畑、地中)、赤(その他)という4つのグループに分類し、さ

らにそれぞれのグループの中で主材料や表したい生き物が同じか似ている児童どうしでつくった3人組で行わせる。生息場所や表現主題、材料でグルーピングすることにより、自分がもっている鑑賞の視点を生かしやすくなり、友達の商品を鑑賞することによって見付けた表現の面白さや楽しさを自分の表現に生かしやすくなると考える。また、3人組で鑑賞を行うことで、第三者的な見方ができる作者以外の2人で思ったことを自由に話し合うことができ、1人で見るときや2人組で見るときよりも内容に深まりや広がりが期待できる。

中間鑑賞会の進め方としては、まず教師と児童2名によるモデル演示を行い、進め方を確かめさせる。その際に、本時の学習でもたせたい鑑賞の視点に気付かせるために、モデル児童が気付かなかった視点については、教師が発言する。つぎに3人組で互いの作品を鑑賞する。はじめに作者が自分の生き物になりきって、がんばっているところや工夫しているところ、できあがりについて話しながら作品の紹介をし、それをうけて作者以外の2人も自分の生き物になりきって作品を見て、面白さや楽しさなど感じたいところを作者に伝える。自分の生き物になりきって鑑賞することで、思ったことを楽しみながら伝え合うことができるので、児童一人一人が積極的に発言できると考える。

中間鑑賞会を行った後は、彩色や飾り付けをして、目や手、体の模様などを表す活動を行わせる。その際には、中間鑑賞会で見付けた表し方の面白さや楽しさのうち、自分の表現に生かすことができそうなところは進んで取り入れるよう言葉かけを行う。また、自分の作品をつくりながら友達の表現の面白さや楽しさを見付けたら、積極的に伝え合うように言葉かけを行う。

終末には、自分ががんばったことや友達の表現の面白さや楽しさについて、数名に発表させ、材料の特徴を見付けて、自分の表したいことに合っているか考えながらつくることのよさを感じ取らせたい。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法 (本時3/6)

	学習活動	具体の評価規準	指導事項	指導方法
導入 5 min	1. 前時までの学習活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図工ノートや自分の作品をみながら、前時までの学習活動について振り返っている。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習活動を振り返り、表したいことを明確にもって、本時の学習に臨むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図工ノートや振り返りカード、自分の作品を見ながら、表したいことを確かめさせる。
	2. 本時のめあてを確認する。 めあて 生きもののとくちようが分かるようにざいりょうを上手につかってつくろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを確認し、本時学習の見通しをもっている。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が考えた生きものを思った通りに表せるように、工夫してつくろうという態度で活動に臨むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな主材料をどんな生き物に変身させるのか、数名の児童に発表させて、本時の学習活動の見通しをもたせる。
展開 15 min	3. 前時にできたところまでの互いの作品を鑑賞する。 (1)モデル演示を見て鑑賞の進め方確かめる。 (2)3人組になり、作者が自分の生き物になりきって、がんばっているところや工夫しているところ、できあがりについて話しながら作品の紹介をする。 (3)作者以外の2人も自分の生き物になりきって作品を見て、面白さや楽しさなど感じたいところを作者に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞の視点をもちながら友達の作品を見て材料の特徴を生かした表し方の面白さや楽しさを見付けている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの鑑賞の視点をもって、色々な見方をしながら、互いの作品の面白さや楽しさを見付けること。 ○ 作品に表したかった気持ち、がんばったところや工夫したところをもとにして、作品の面白さや楽しさを味わうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデル演示は、教師と2名の児童で行う。様々な鑑賞の視点に気付かせるために、モデル児童が気付かなかった視点については、教師が発言する。 ・ 3人組は、生き物の生息場所が同じで、主材料や表したい生き物が同じか似ている児童どうしでつくる。 ・ 教師は各グループをまわり、発言が批判的になったり助言的になったりしないように指導し、児童の活動への意欲を高めたり持続させたりする。
	3. 彩色や飾り付けをして、目や手、体の模様などを表す。 ○ 前時まででできている大体の形に、ペンなどで直接模様を描いたり彩色をしたりする。 ○ 選んだ材料を切るなどして加工し、接着接合をする。 ○ 加工した材料に、必要に応じて彩色したり模様を描いたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がつくりたい生き物をつくるのに最適だと思う材料や表し方を考えている。(発) ・ 選んだ材料をどの部分にどのように使うのか確かめながら表している。(技) ・ 材料の特徴に合わせて、適切な接着接合の仕方をしている。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がつくりたい生き物のイメージに合う補助材料を選び、形や組み合わせ方について考えること。 ○ 材料の特徴にあわせて加工の仕方を工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料を集めた材料コーナーを設定し、児童が最適な材料を選べるようにする。 ・ 接着剤や接合材料の使い方に関する資料を提示し、接着や接合についての指導を行う。 ・ 活動中に気付いた作品の面白さや楽しさは、積極的に伝えさせる。 ・ 図工ノートの記述や児童の活動の見取りをもとにして、個に応じた支援を行う。
終末 5 min	5. 本時学習の感想を聴き合い、学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の特徴を生かした表現の面白さや楽しさについて、自分なりの視点で感じたことを確かめている。(発) (技) (鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の特徴を見付けて、自分の表したいことに合っているか考えながらつくること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分ががんばったことや友達表現の面白さや楽しさについて、数名に発表させる。

図こうノート 2009 「あつまれ すてきな なかまたち～ざいりょうのへんしん～」①	名 前	
---	--------	--

☆ べんきょうのすすめ方をたしかめて、見通しをもちましょう。

よてい	かつどう	先生、あのね。(がんばったこと、くふうしたこと など)
①	<p>○ 今までのおべんきょうをふりかえろう。</p> <p>○ ざいりょうが何に見えるか話し合おう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まんぞくど： (4点中) 点 </div>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
②	<p>○ いろいろなざいりょうをさわったり組み合わせてみたりしよう。</p> <p>○ どんなざいりょうをどんな生きものにへんしんさせるか、考えよう。</p> <p>○ 大体の形をつくろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まんぞくど： (4点中) 点 </div>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
③ ・ ④	<p>○ 大体の形ができた生きものをかんしょうし合おう。</p> <p>○ 色をぬったり、かざりつけをしたりして、目や手、体のもようなどをつくろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まんぞくど： (4点中) 点 </div>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
⑤	<p>○ 生きものずかんをつくろう。</p> <p>○ かんしょう会のじゅんぴをしよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まんぞくど： (4点中) 点 </div>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
⑥	<p>○ さくひんかんしょう会をしよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まんぞくど： (4点中) 点 </div>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

図こうノート 2009 「あつまれ すてきな なかまたち～ざいりょうのへんしん～」③	名 前	
---	--------	--

☆ どんなざいりょうを どんな生きものに へんしんさせますか。

【へんしんさせる ざいりょうは 何ですか】	【どんな生きものに へんしんさせますか】
【その生きものの 名前は 何ですか】	【この生きものは どこにすんでいますか】
【どうして このざいりょうを この生きものに へんしんさせようと 思ったのですか】	
【この生きものの とくちょうは 何ですか】	
【この生きものをつくるときに がんばっているところや くふうしているところは】	
【これから どんな色ぬりや かざりつけをして つくっていきますか】	

図こうノート 2009 「あつまれ すてきな なかまたち～ざいりょうのへんしん～」②	名 前	
---	--------	--

☆ いろいろなざいりょうを見たり さわったり 組み合わせたりしてみよう。どんな生きものに見えるかな。

ざいりょう	どんな生きものに見えた？
(れい1) うちわ	2つのうちわを合わせると、大きなちょうちょうに見えた。

生きものずかん

名前

【しゃしん】

【名前】

【しゅるい】

【すんでいるばしょ】

【この生きものの とくちょう】

【がんばったところ・くふうしたところ】

図こうノート 2009 「あつまれ すてきな なかまたち～ざいりょうのへんしん～」④	名 前	
---	--------	--

1. 友だちから もらった カードを はりましょう。